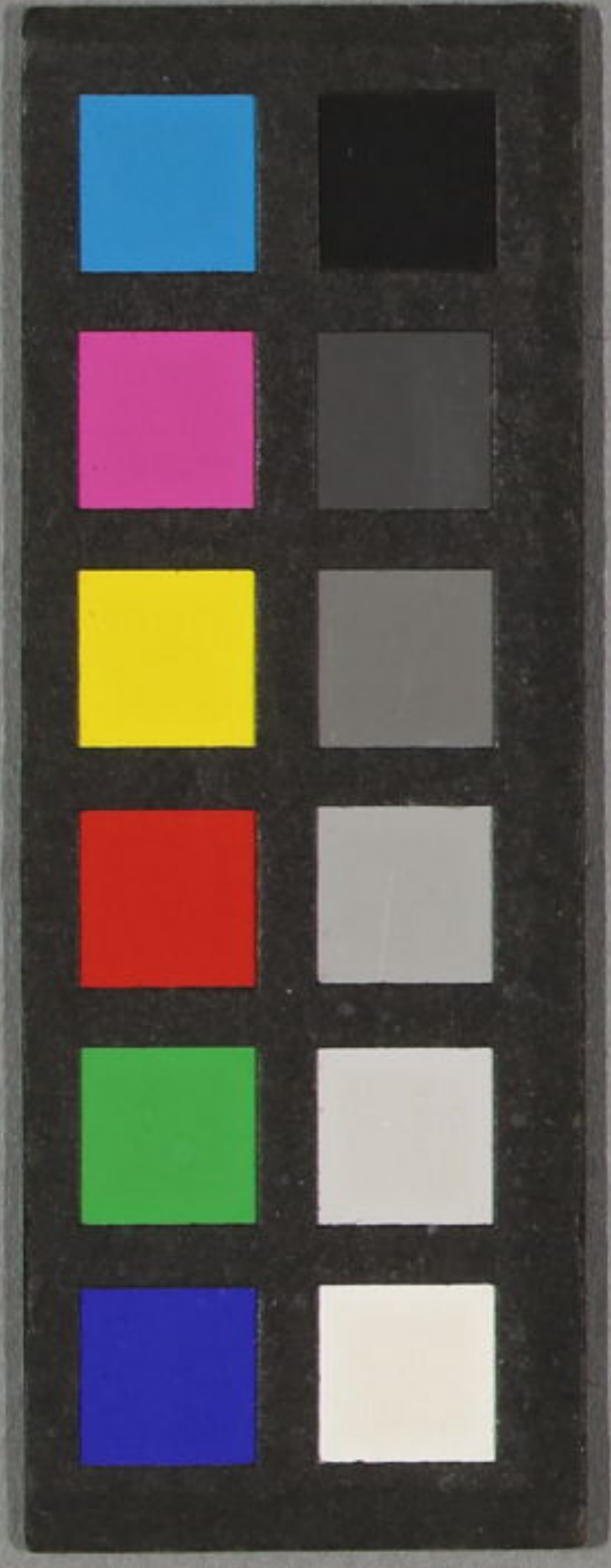


第八卷

Handwritten text in cursive script, likely a preface or commentary, located in the upper left quadrant of the page.



~ 13  
3749  
27



門 へ 13  
號 3749  
卷 27

Handwritten text in cursive style (sōsho) on a page decorated with yellow diamond-shaped patterns. The text is mostly illegible due to the style and fading.

釋迦八相倭文庫五十五編叙

夫憐貧賤癡の不善人の師あり正信孝子の善人の

不善人の師ありとされば善も不善も共に心の師とあるもの

故月蓋の不善を觀て怖は法名童子の善をそと進まんことを

願ふは善の度三室の名を戲作の著は是越法の大罪なり

地獄へ墮落と思へ一日法華經をいふは若人爲佛故建

立諸形像乃至童子戲若草木及筆或以指爪甲面畫作

佛像如是諸人等皆已成佛道といはれば法は善の道なり

功德ありと心とす筆を採ること志のなり

慶應二丙寅年  
孟春吉日設市

越法罪人

万真下應加貝誌





北天竺毘舍離王  
の長臣高祿の男  
法名童子孝行  
の爲に身を賣て  
山神の生身御供  
と成る圖

卷之五十一



指鬘外道

佛説鷲峯摩經云舎衛城の  
異梵志を師とて聰明

賢才五百弟子の

首坐曲りて初の  
名を一切世間現と号

佳夫あれば師の

室深く懸想を

然も共深心ざるを

恨をく室夫み諷を

これ依て師謀を以て渠を

殺さん為百人を殺し其指を

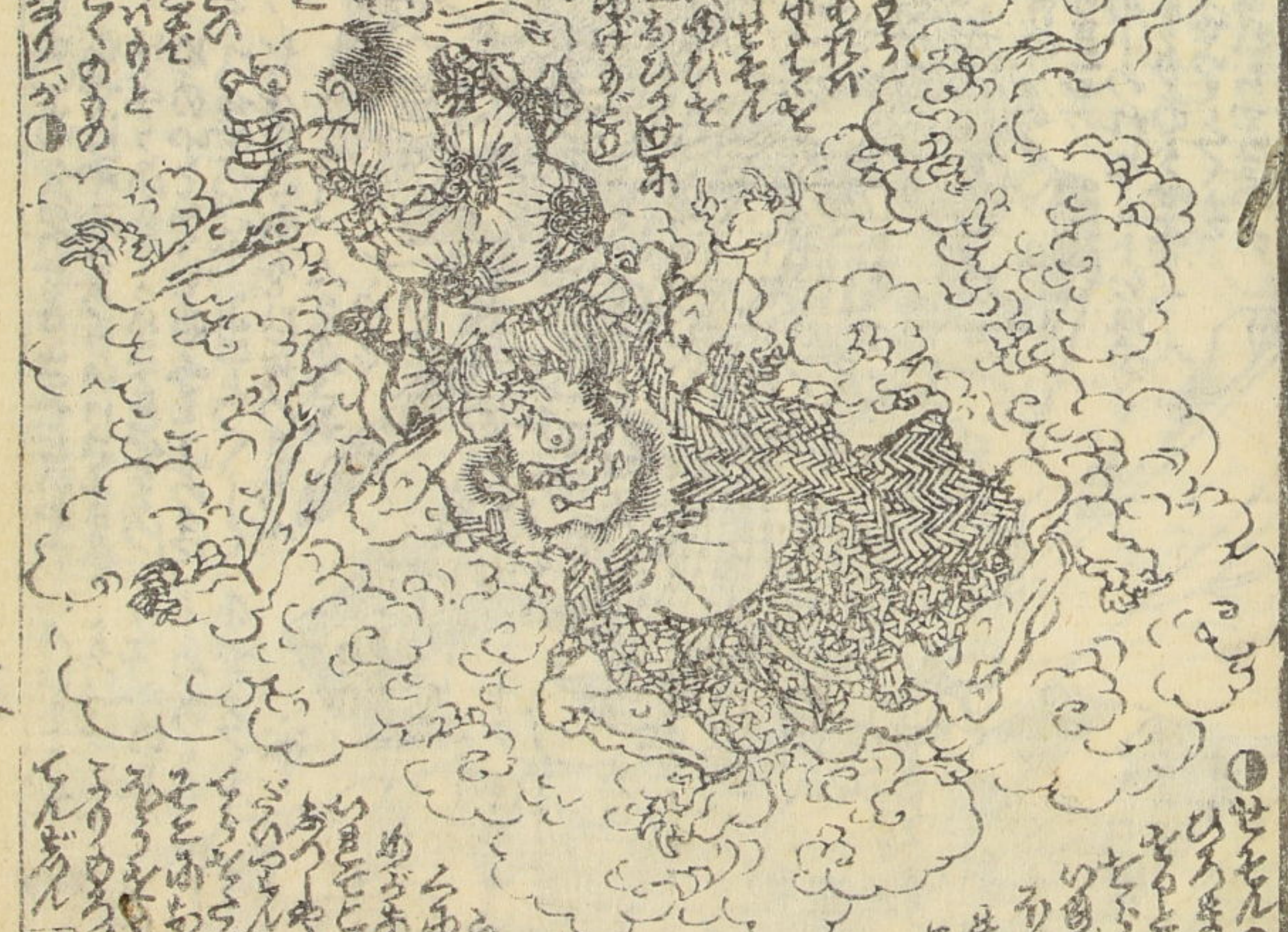
首鬘とをも色に道德備はらんと邪訓を



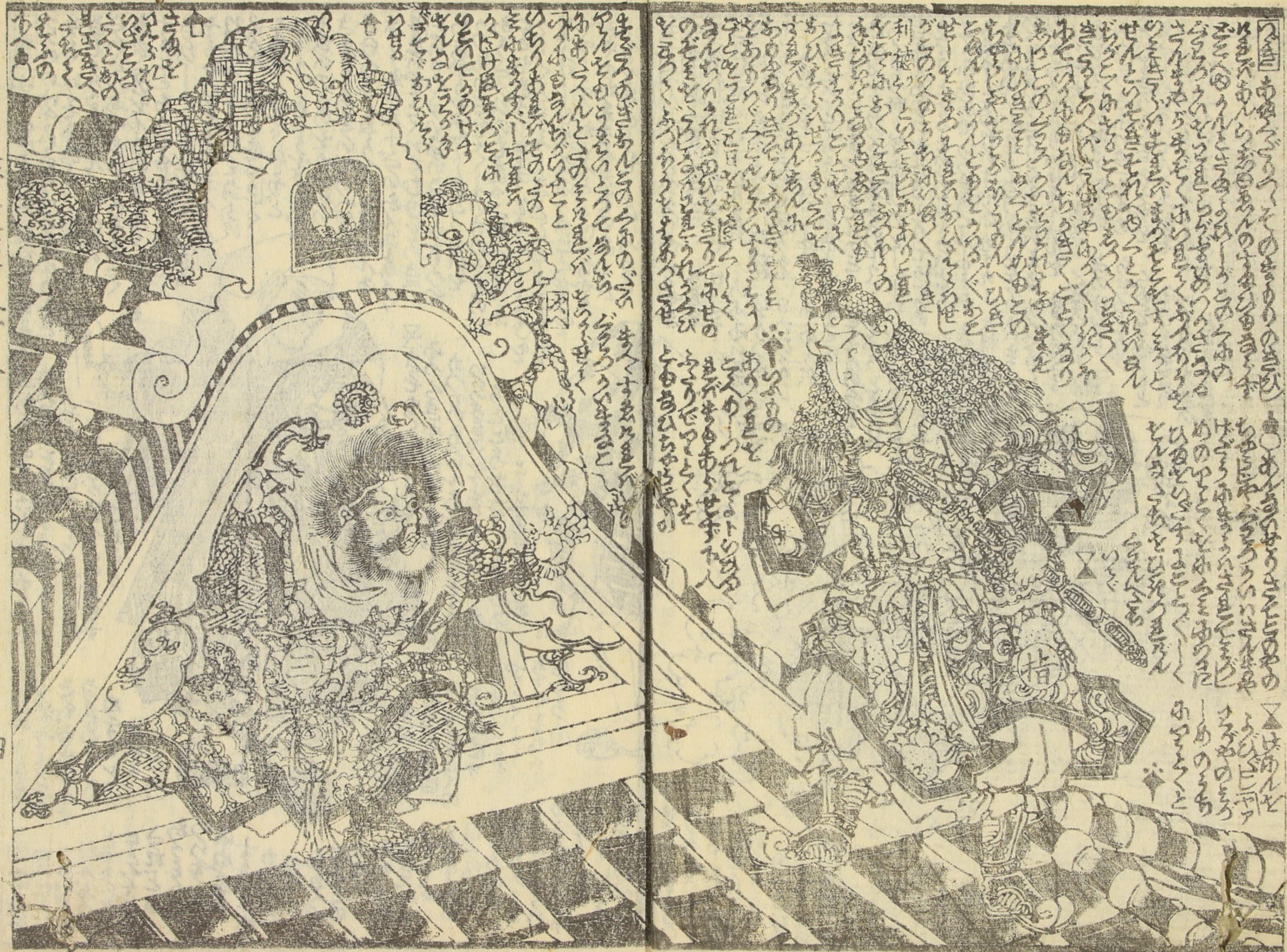
おびて  
多人を  
殺指を  
額の鬘と

鷲峯  
摩と  
指  
鬘外  
道  
しん云

五十五上  
指鬘外道の事  
佛説鷲峯摩經云  
舎衛城の異梵志  
を師とて聰明賢  
才五百弟子の首  
坐曲りて初の名  
を一切世間現と  
号佳夫あれば師  
の室深く懸想を  
然も共深心ざる  
を恨をく室夫み  
諷をこれ依て師  
謀を以て渠を殺  
さん為百人を殺  
し其指を首鬘と  
をも色に道德備  
はらんと邪訓を



火を吐く  
龍の鬘と  
首鬘と  
指鬘と  
鬘外  
道  
しん云



左の側面から見るに、この人々の服装は  
 江戸の風流人の装束と見えて、  
 さながら大名の御座敷の如く、  
 障子の間接光り、  
 床の間のしつこさ、  
 屏風の意匠、  
 すべてが、  
 幕府の威風凛々たる  
 格式を、  
 巧みに表現して、  
 讀者の想像力を、  
 一層掻き立てる。

この人々の服装は、  
 江戸の風流人の装束と  
 見えて、さながら大名の  
 御座敷の如く、障子の  
 間接光り、床の間の  
 しつこさ、屏風の意匠、  
 すべてが、幕府の  
 威風凛々たる格式を、  
 巧みに表現して、  
 讀者の想像力を、  
 一層掻き立てる。

この人々の服装は、  
 江戸の風流人の装束と  
 見えて、さながら大名の  
 御座敷の如く、障子の  
 間接光り、床の間の  
 しつこさ、屏風の意匠、  
 すべてが、幕府の  
 威風凛々たる格式を、  
 巧みに表現して、  
 讀者の想像力を、  
 一層掻き立てる。

この人々の服装は、  
 江戸の風流人の装束と  
 見えて、さながら大名の  
 御座敷の如く、障子の  
 間接光り、床の間の  
 しつこさ、屏風の意匠、  
 すべてが、幕府の  
 威風凛々たる格式を、  
 巧みに表現して、  
 讀者の想像力を、  
 一層掻き立てる。

Vertical handwritten text in the upper right section of the page.



Vertical handwritten text located to the left of the woman's illustration.

Vertical handwritten text in the lower right section of the page.

Vertical handwritten text in the upper left section of the page.

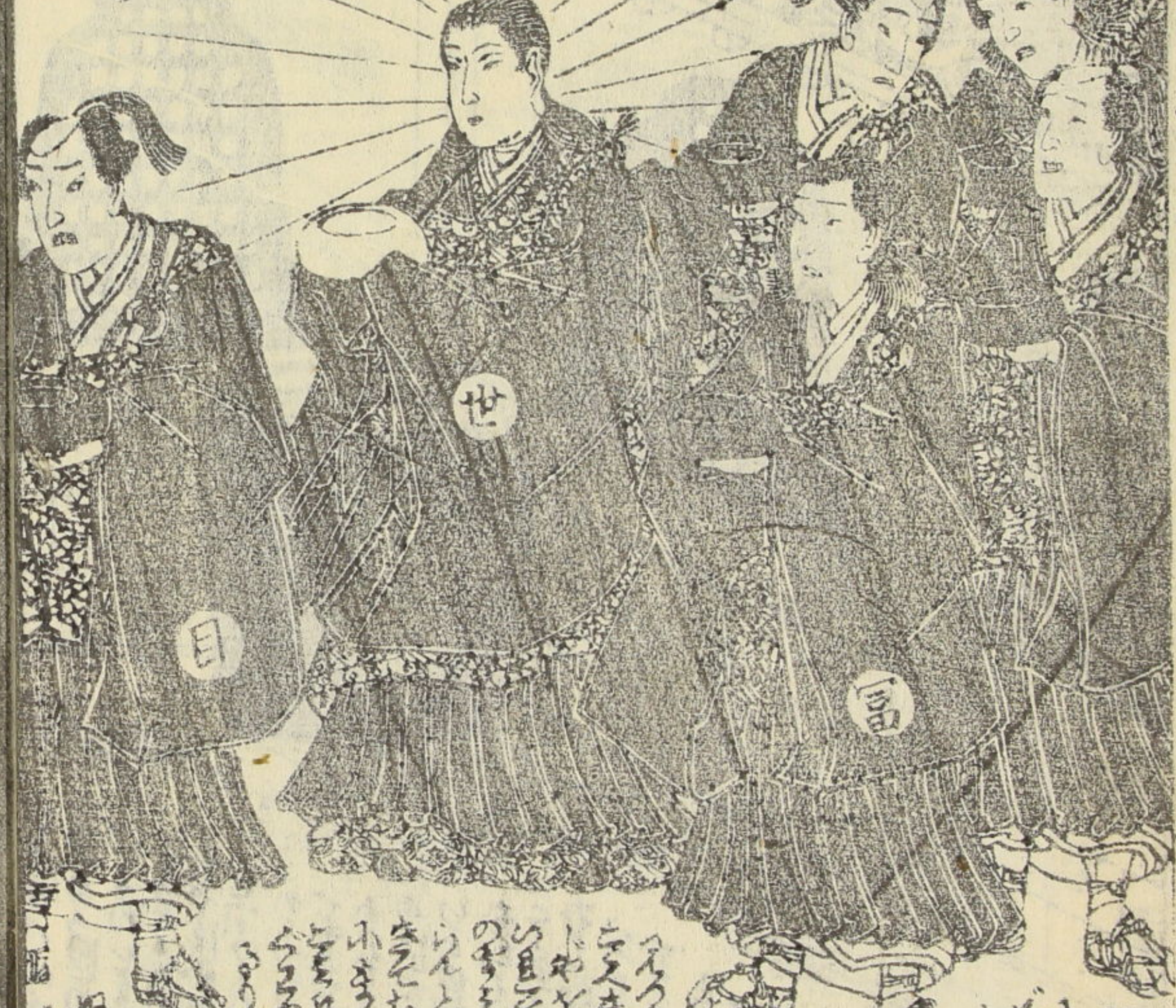


Vertical handwritten text located between the two illustrations.

Vertical handwritten text in the lower left section of the page.

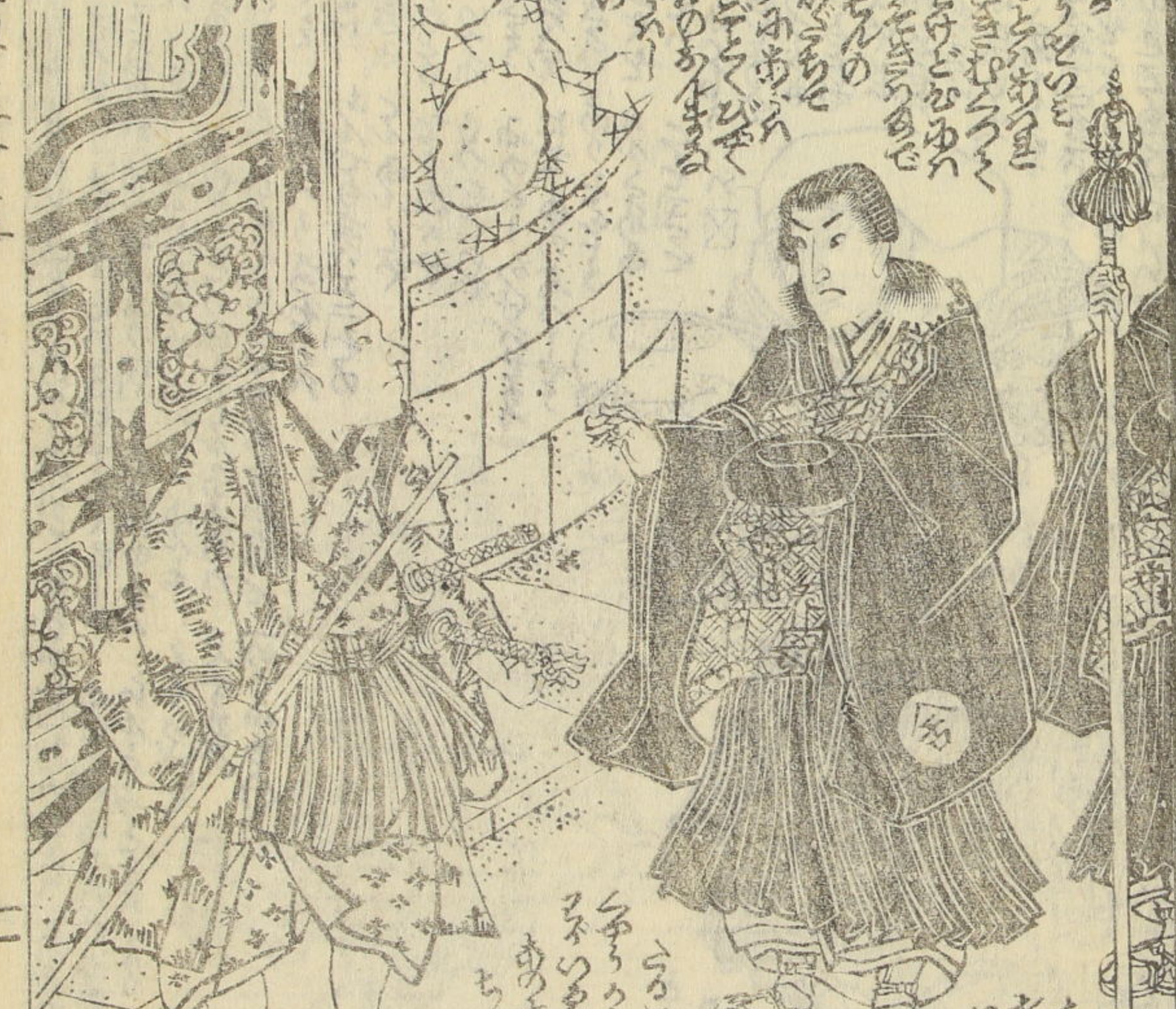


Handwritten text in the top right corner of the right page, including the name 'Sakaki' and other characters.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, continuing the narrative or providing commentary.

Handwritten text in the top left corner of the left page, including the name 'Sakaki' and other characters.



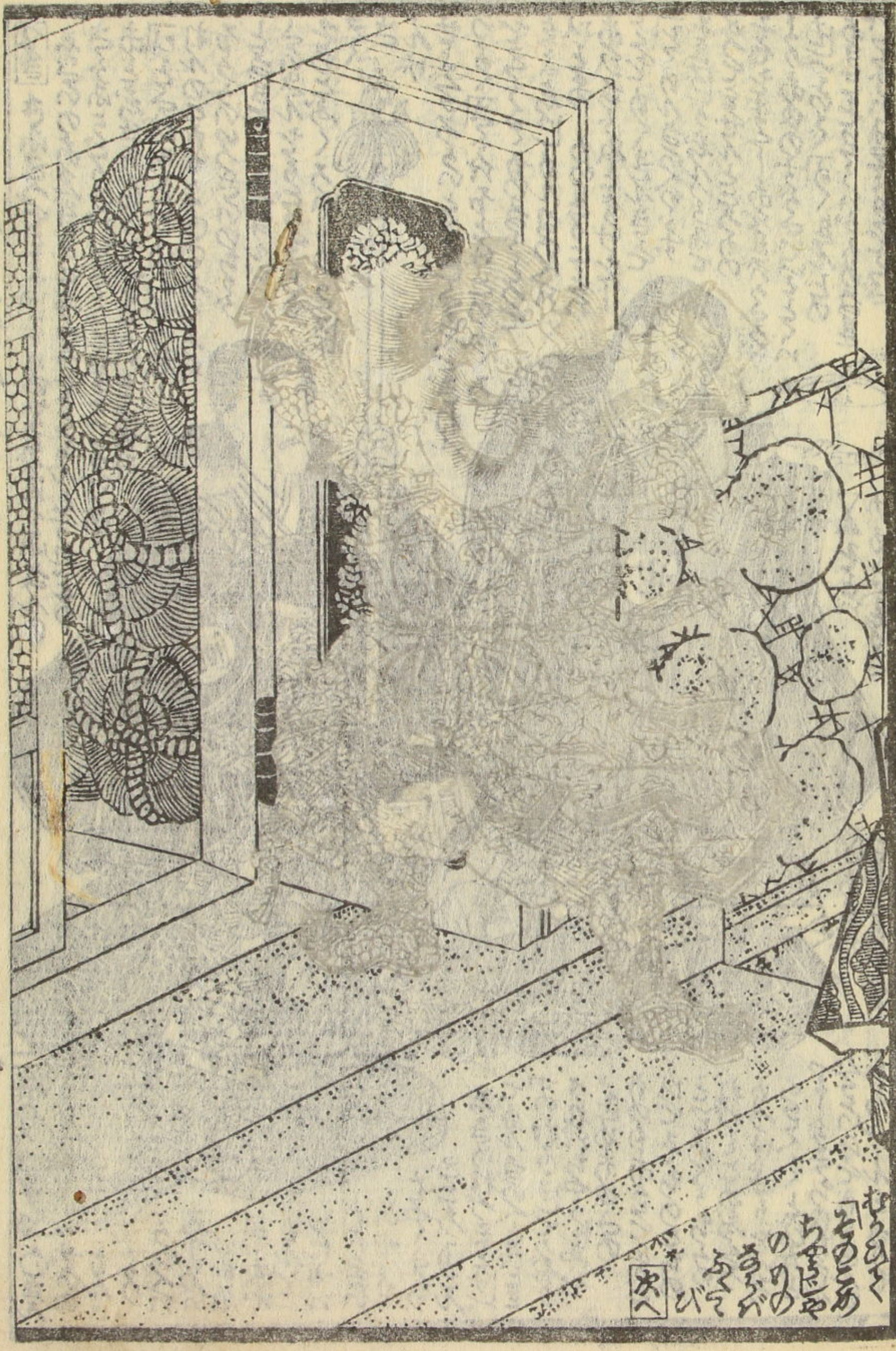
Handwritten text in the bottom left corner of the left page, continuing the narrative or providing commentary.



此の世の事は... (Main text on the right page, written vertically in kuzushiji)

月 (Character on the figure's chest)

此の世の事... (Text at the bottom of the right page)



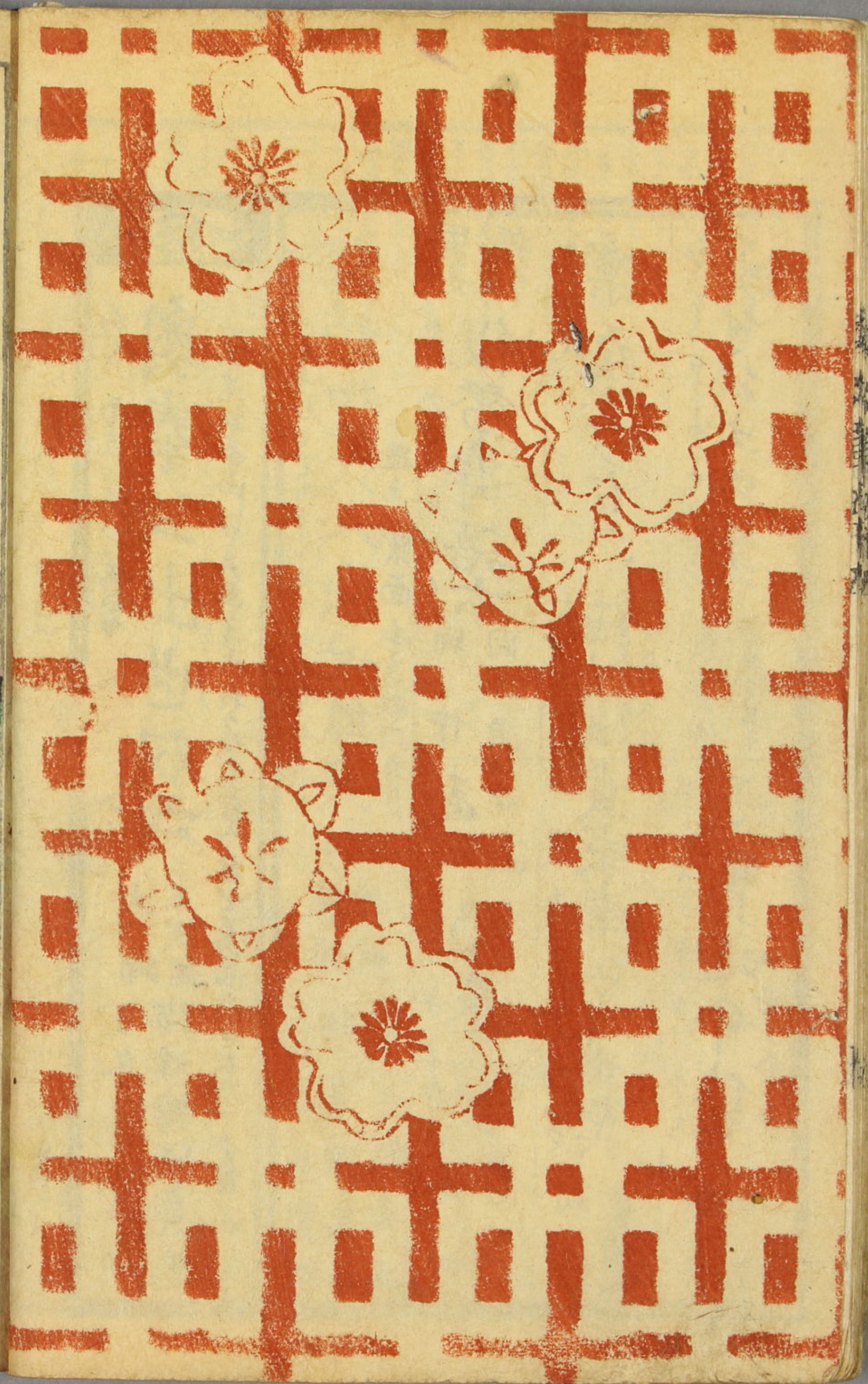
此の世の事... (Text on the left margin of the left page)

此の世の事... (Text at the bottom of the left page)





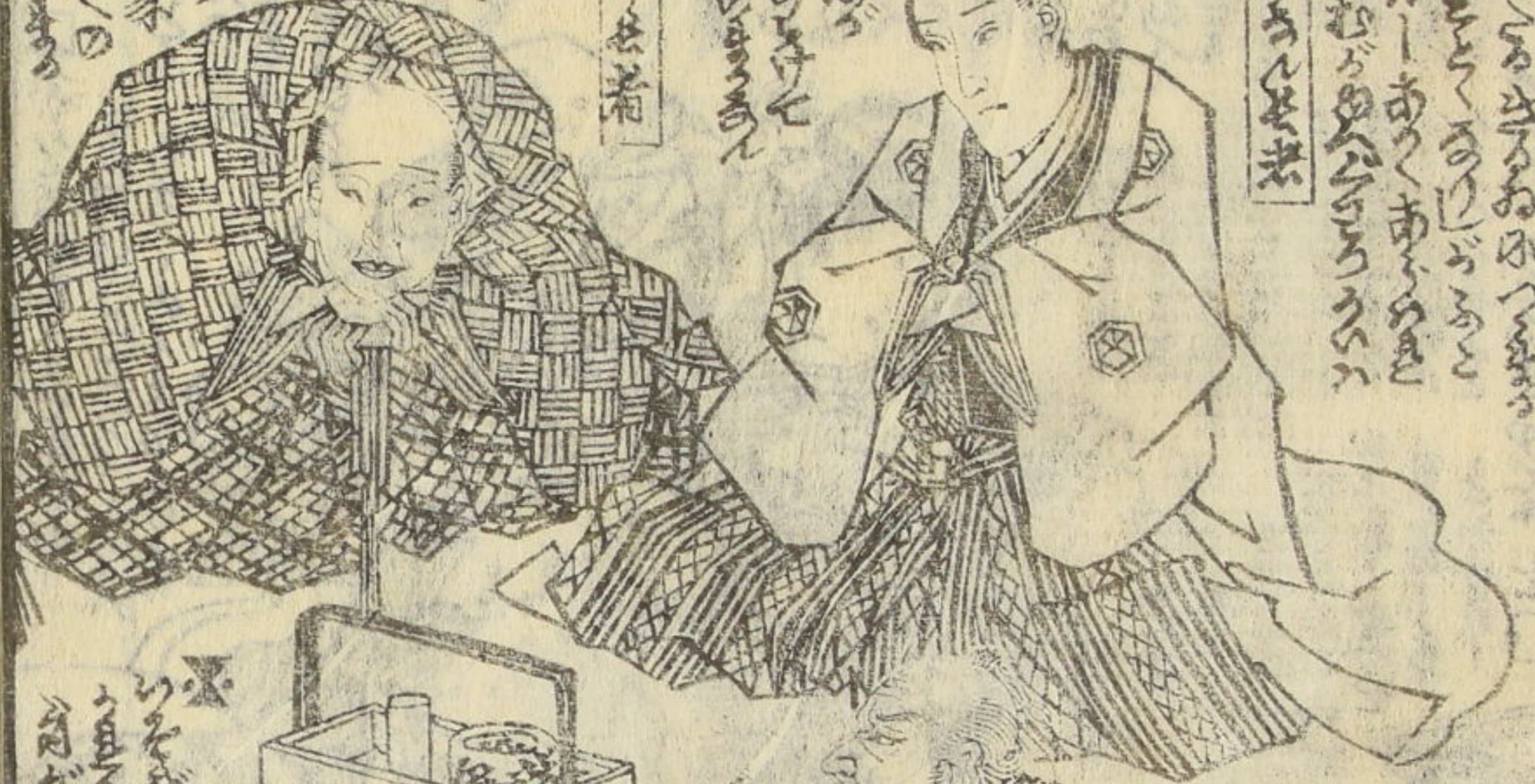






Handwritten text in the top right corner of the right page, including a small boxed label.

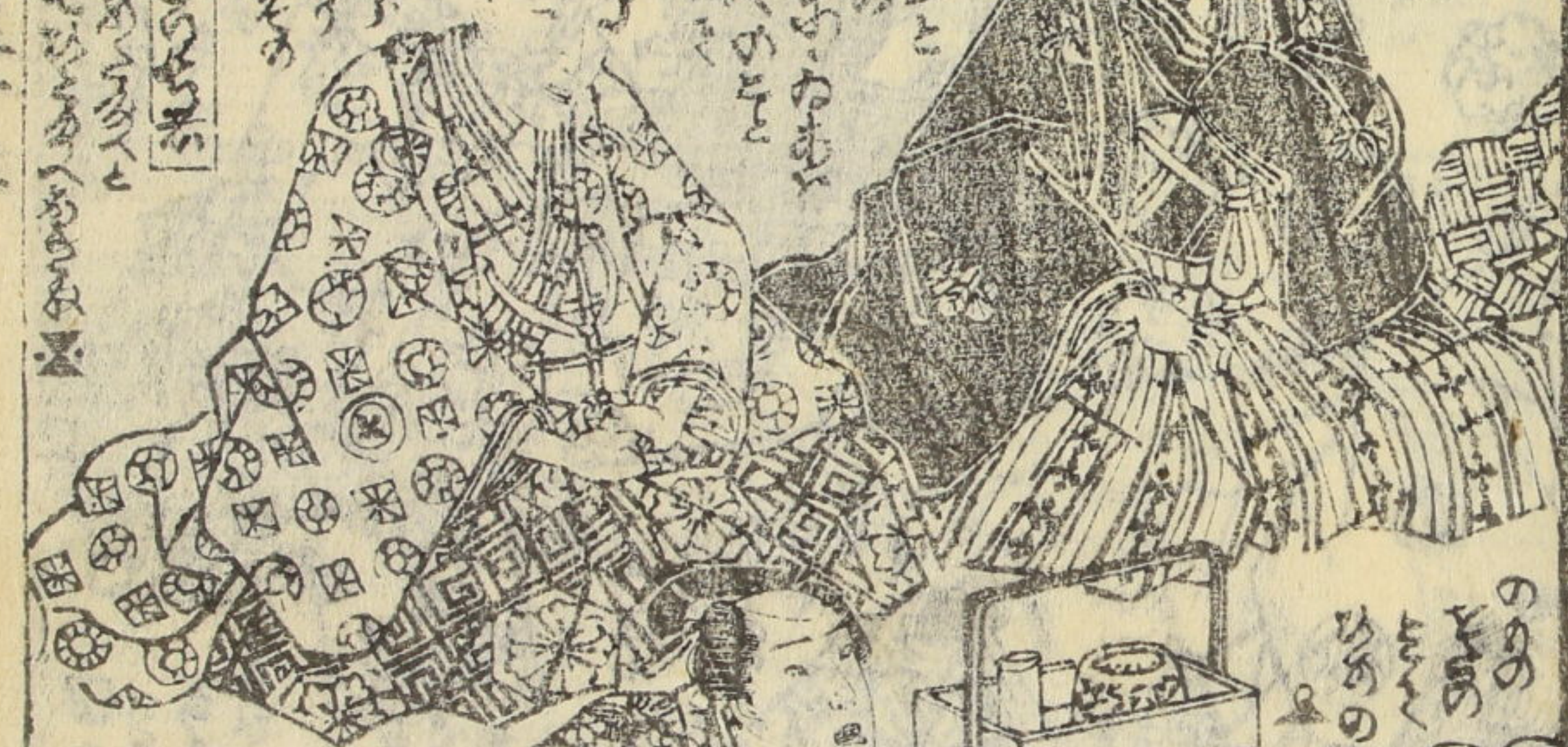
Handwritten text in the top left corner of the right page, including a small boxed label.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, including a small boxed label.

Handwritten text in the bottom left corner of the right page, including a small boxed label.

Handwritten text in the top left corner of the left page, including a small boxed label.



Handwritten text in the bottom right corner of the left page, including a small boxed label.

Handwritten text in the bottom left corner of the left page, including a small boxed label.



あ  
ん  
に  
の  
こ  
し  
は  
あ  
く

何文庫五十五

三十一





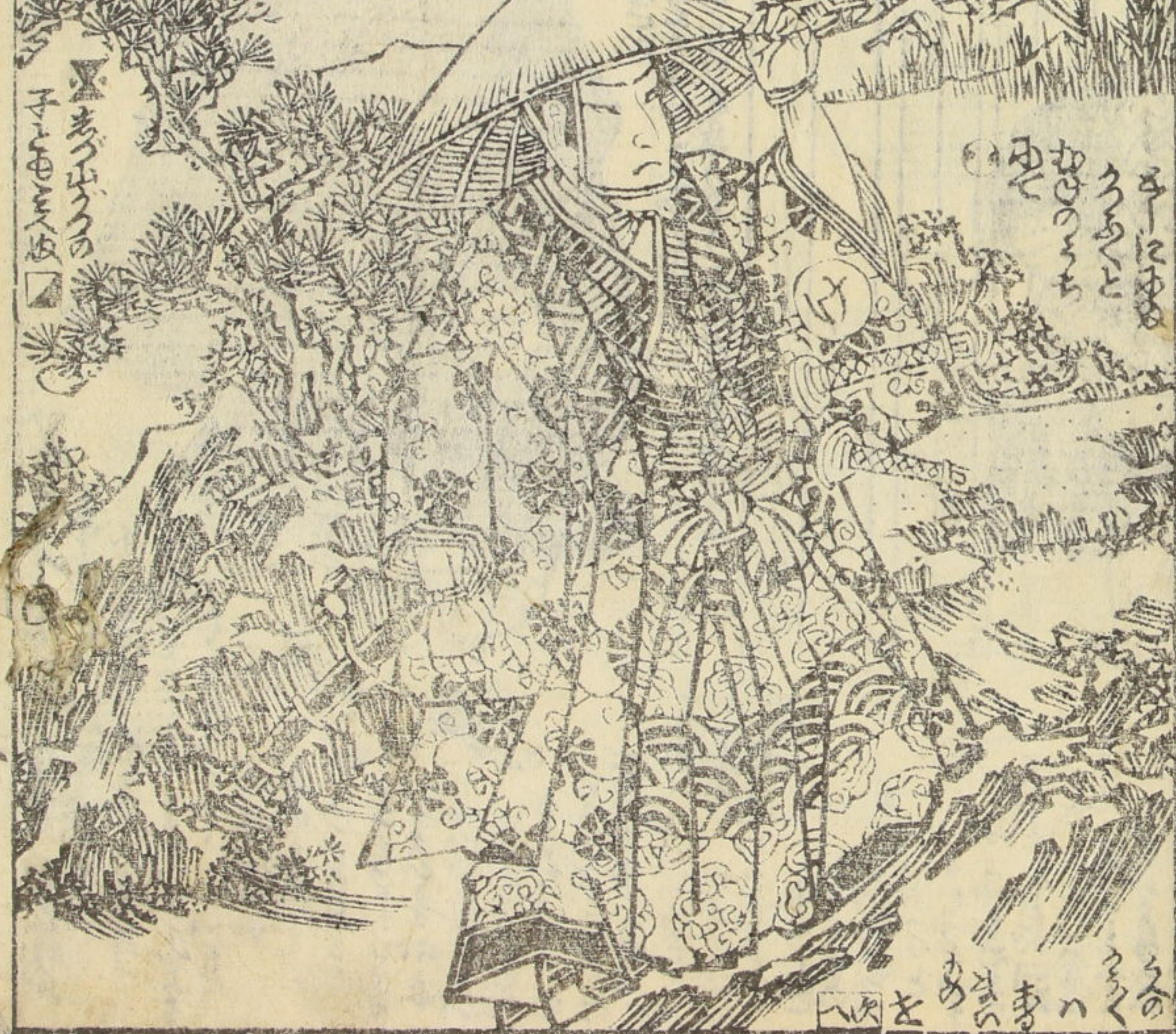


草履は草の葉を編んで  
 作ると云ふは  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履

草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履

草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履

草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履



草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履

草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履

草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履

草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履  
 草履の草履



Reading from right to left:

かたし けりやうなりなるしよりて  
うたはれし けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて

くさきの手のまらぬらん  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて

Reading from right to left:

けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて

Reading from right to left:

けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて

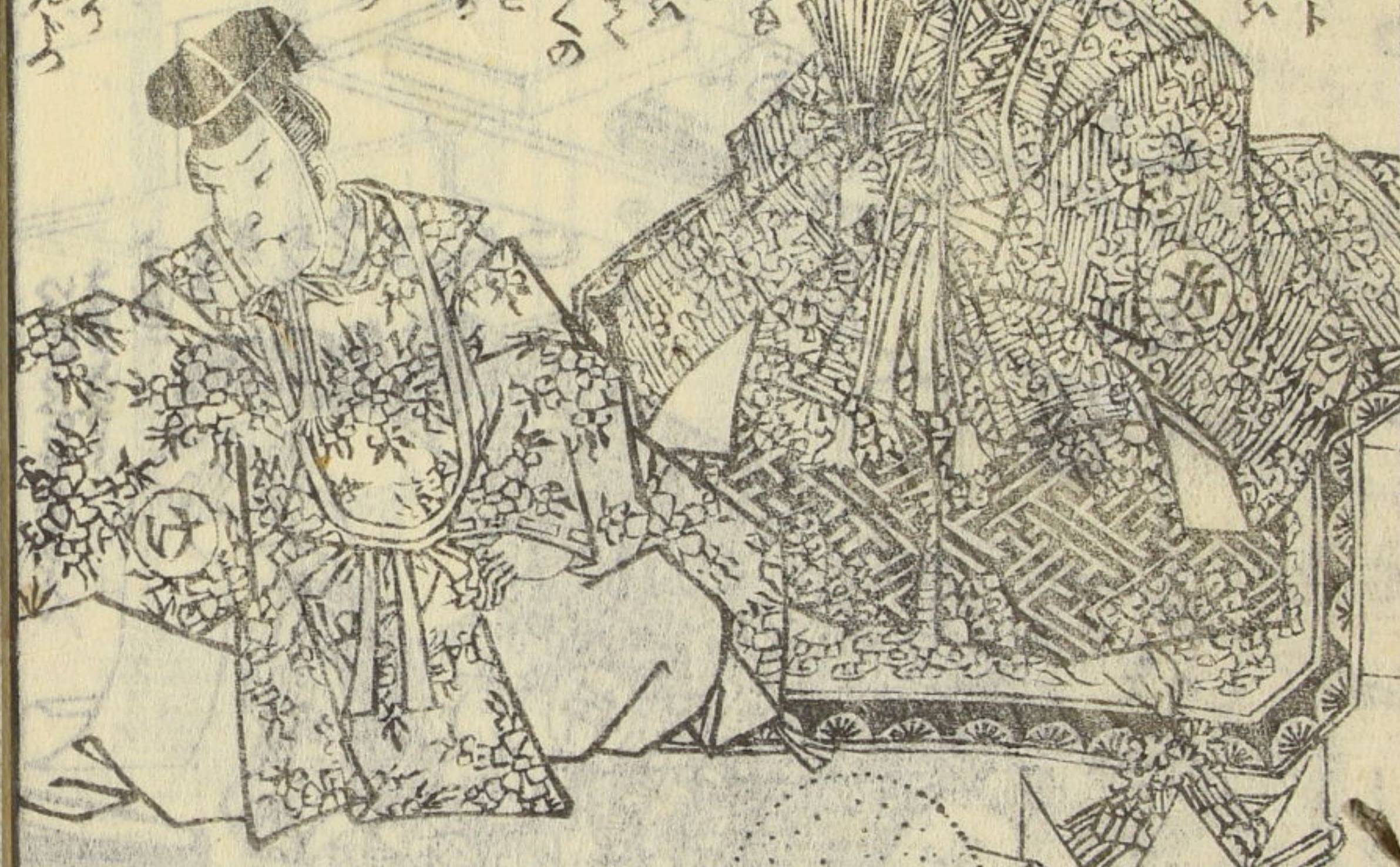
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて

Reading from right to left:

けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて  
けりやうなりなるしよりて



Handwritten text in a cursive script, likely a historical or literary account, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the right page, below the illustration.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the left page.

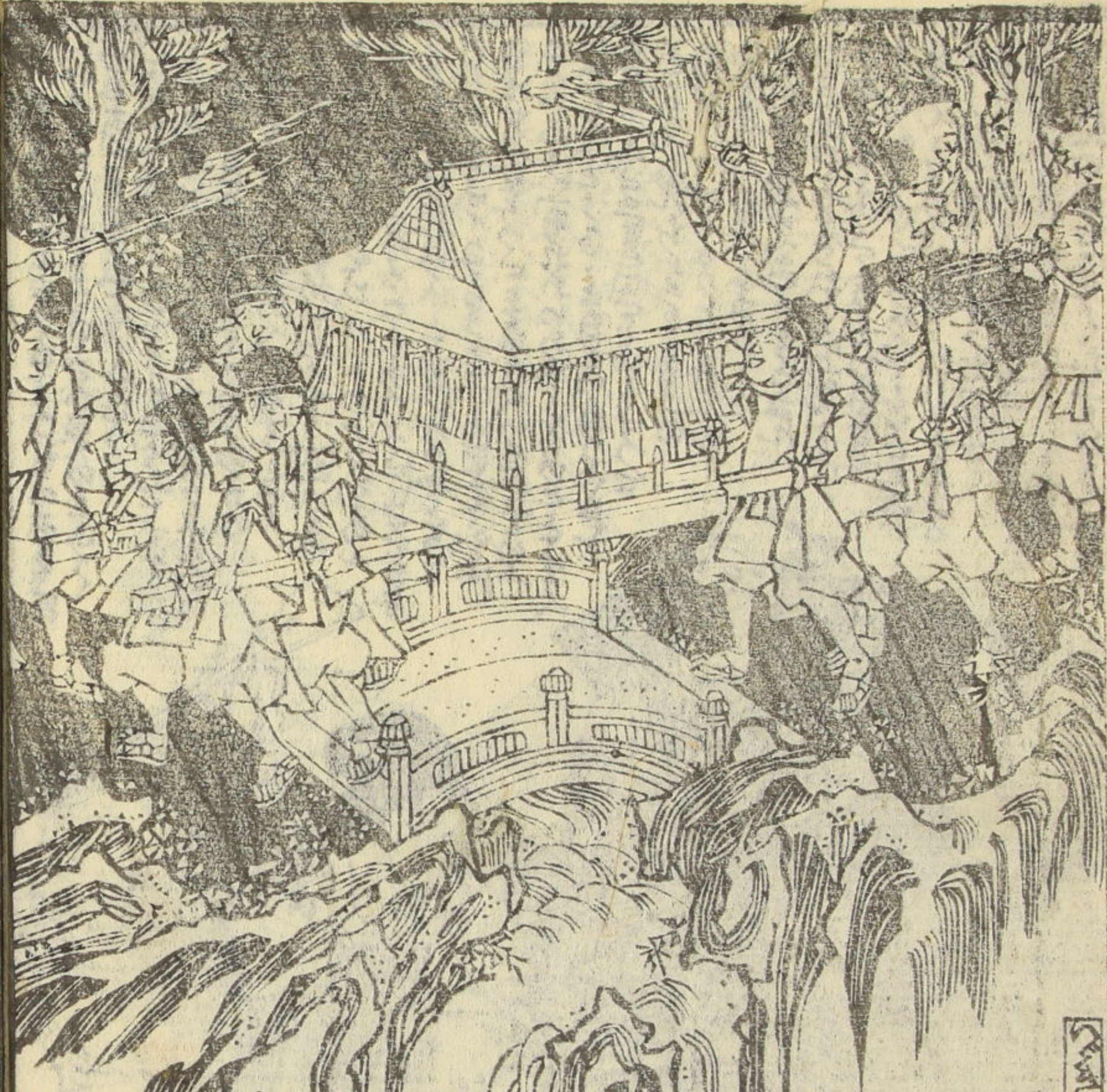


Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page, below the illustration.

Vertical handwritten text on the far left margin of the left page.



1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100



1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100

佛文庫五十五



慶應四年戊辰春新版目録

倭文庫

五六編 五十七編 万亭應賀作  
一壽齋國貞画

朝日譚

七編 柳亭種彦作  
八編 一惠齋芳幾画

重井菱染別小紋

十返舎一九作  
大尾

常般石津懷中本

初八二八人 小中あそ書付  
三八八四八人 万の極上最まり

重繪草紙本類問屋

人形町 上州屋重藏板

万亭應賀作



一壽齋貞畫



傳世庫

二

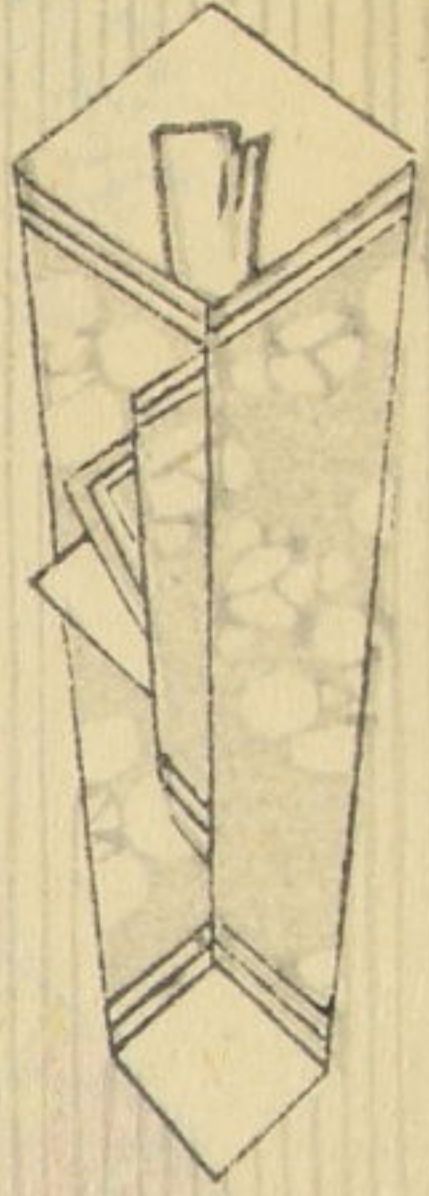




上冊

倭文庫五拾六編





五十編上

手紙

應賀作  
國貞重  
人形町  
錦重堂製

釋迦八相倭文庫五拾六編序

夫佛書の多く勝鬘姫の形醜悪く深室の匿一置佛也  
感とて端正の變體たるを記し勝鬘經の惡女の説は  
是のまゝく賴提が傳を錯し成べし勝鬘經賴提の其の  
波斯匿王の女ゆへ賴提の如云醜女の説あり然れども此卷の  
流布の説擬らく賴提の名及び正説をたふさば有心  
者雜審藏經を開く見よなんのかたと權識あるは假名  
本りらざる贅言をのれごと釋迦とつゝ二字が有ら  
慢氣らるるも爾云

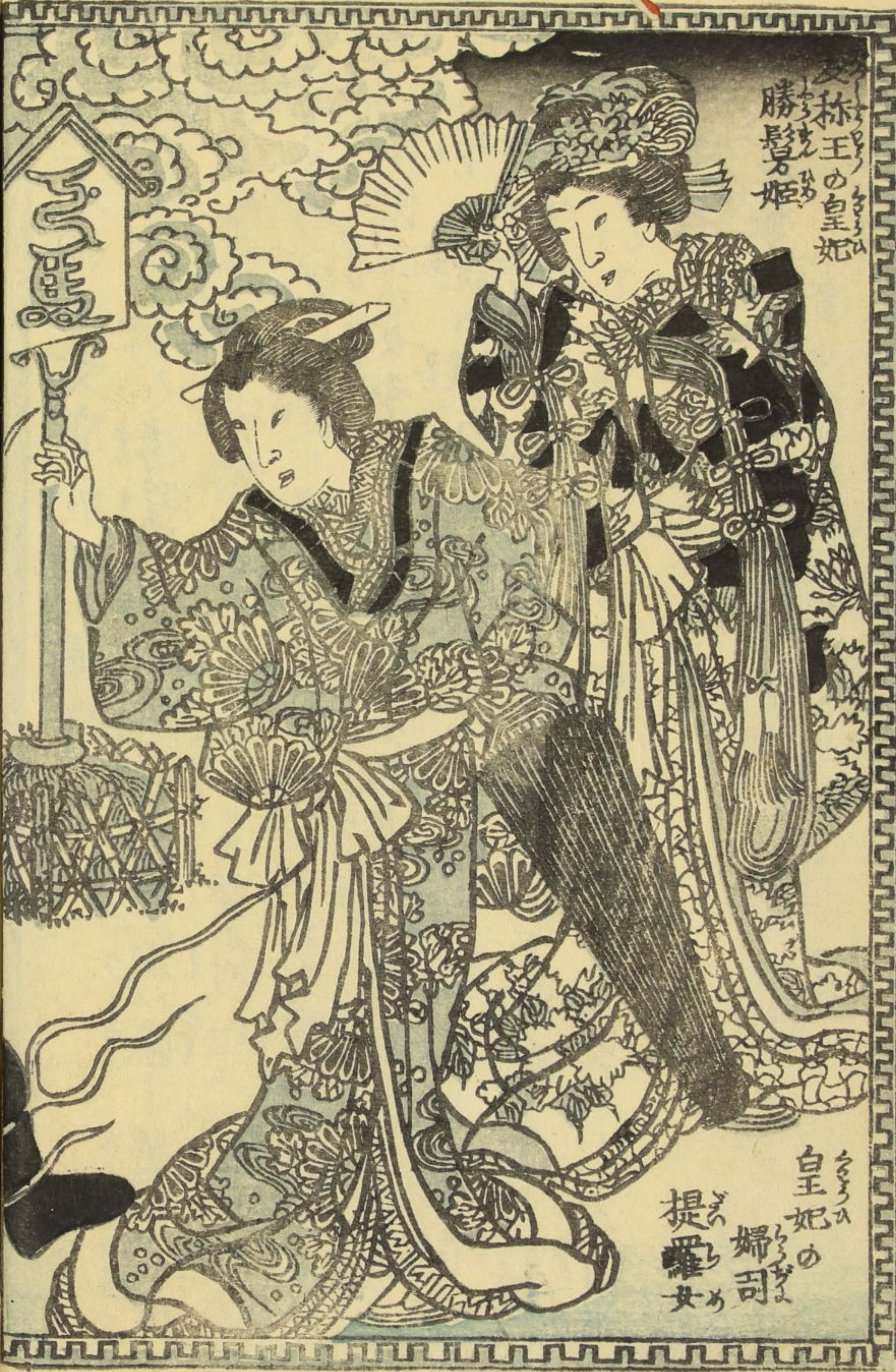
慶應三丁卯歲  
季秋發兌  
萬亭應賀誌

三十一



阿 阿 阿  
阿 阿 阿  
阿 阿 阿

提婆達多  
の家臣  
三開  
達太



勝 勝 勝  
勝 勝 勝  
勝 勝 勝

皇 皇 皇  
皇 皇 皇  
皇 皇 皇





女どものおもしろき事  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ

まんのびんとあつたげ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ

のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ

あつたげ  
 のりまゝ  
 のりまゝ  
 のりまゝ  
 のりまゝ



あつたげ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ

あつたげ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ

あつたげ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ  
 のりまゝのりまゝのりまゝ













△ 七とくすハ  
あそれの長  
とあさなわ  
とりのけこ  
とちばにめま  
あかやうく  
あなんをさ  
け二ホち三ホ  
そらとの三ツ  
んぐ、まろ  
あぬのま  
りまうひの  
あぬらちち  
あぬあま  
あぬあま  
あぬのま  
わうそま  
のらのあ  
りまう



△ 七とくすハ  
あそれの長  
とあさなわ  
とりのけこ  
とちばにめま  
あかやうく  
あなんをさ  
け二ホち三ホ  
そらとの三ツ  
んぐ、まろ  
あぬのま  
りまうひの  
あぬらちち  
あぬあま  
あぬあま  
あぬのま  
わうそま  
のらのあ  
りまう

△ 七とくすハ  
あそれの長  
とあさなわ  
とりのけこ  
とちばにめま  
あかやうく  
あなんをさ  
け二ホち三ホ  
そらとの三ツ  
んぐ、まろ  
あぬのま  
りまうひの  
あぬらちち  
あぬあま  
あぬあま  
あぬのま  
わうそま  
のらのあ  
りまう



應賀作國貞画

傳文庫三十一



奥奉公出世双六

大錦万亭應賀作  
五枚繼梅蝶樓國貞画

獨娘八人出世雙六

大錦繪  
故豊園翁画  
惺々狂奇画

男女  
振分  
役替壽語六

同作  
同画

妻の

羽素双六  
同作  
同画

樂屋高古六

二重高後共  
三階も作  
のさる作  
面本さ堅い

武家奉公出世双六

同作  
豊園画

奥奉公出世双六

豊園作  
豊園画

子寶延命代衣

同作  
同画

万喜應賀作  
一壽祿兩國貞画

下冊

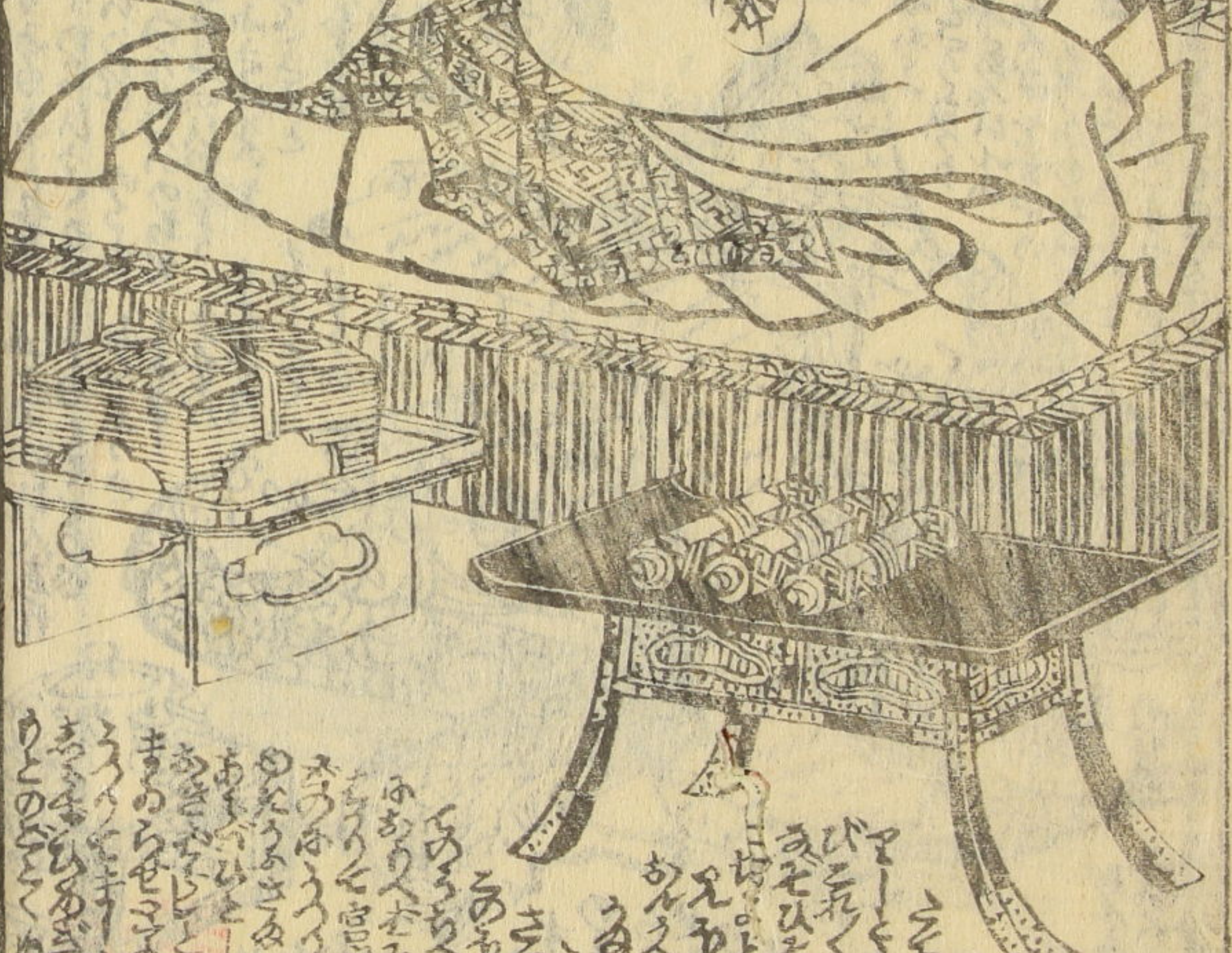


錦重堂板





梅の花の香をよめりて  
 玉のしほりてはなれ  
 梅の花の香をよめりて  
 玉のしほりてはなれ  
 梅の花の香をよめりて  
 玉のしほりてはなれ



玉のしほりてはなれ  
 梅の花の香をよめりて  
 玉のしほりてはなれ  
 梅の花の香をよめりて

梅の花の香をよめりて  
 玉のしほりてはなれ  
 梅の花の香をよめりて  
 玉のしほりてはなれ  
 梅の花の香をよめりて  
 玉のしほりてはなれ



玉のしほりてはなれ  
 梅の花の香をよめりて  
 玉のしほりてはなれ  
 梅の花の香をよめりて











三十二 〇 三十一  
 〇 三十一  
 〇 三十一  
 〇 三十一  
 〇 三十一



〇 三十一  
 〇 三十一  
 〇 三十一  
 〇 三十一

〇 三十一

三十三 〇 三十二  
 〇 三十二  
 〇 三十二  
 〇 三十二  
 〇 三十二



〇 三十二

〇 三十二



林の淵に

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



林の淵に

あはれ

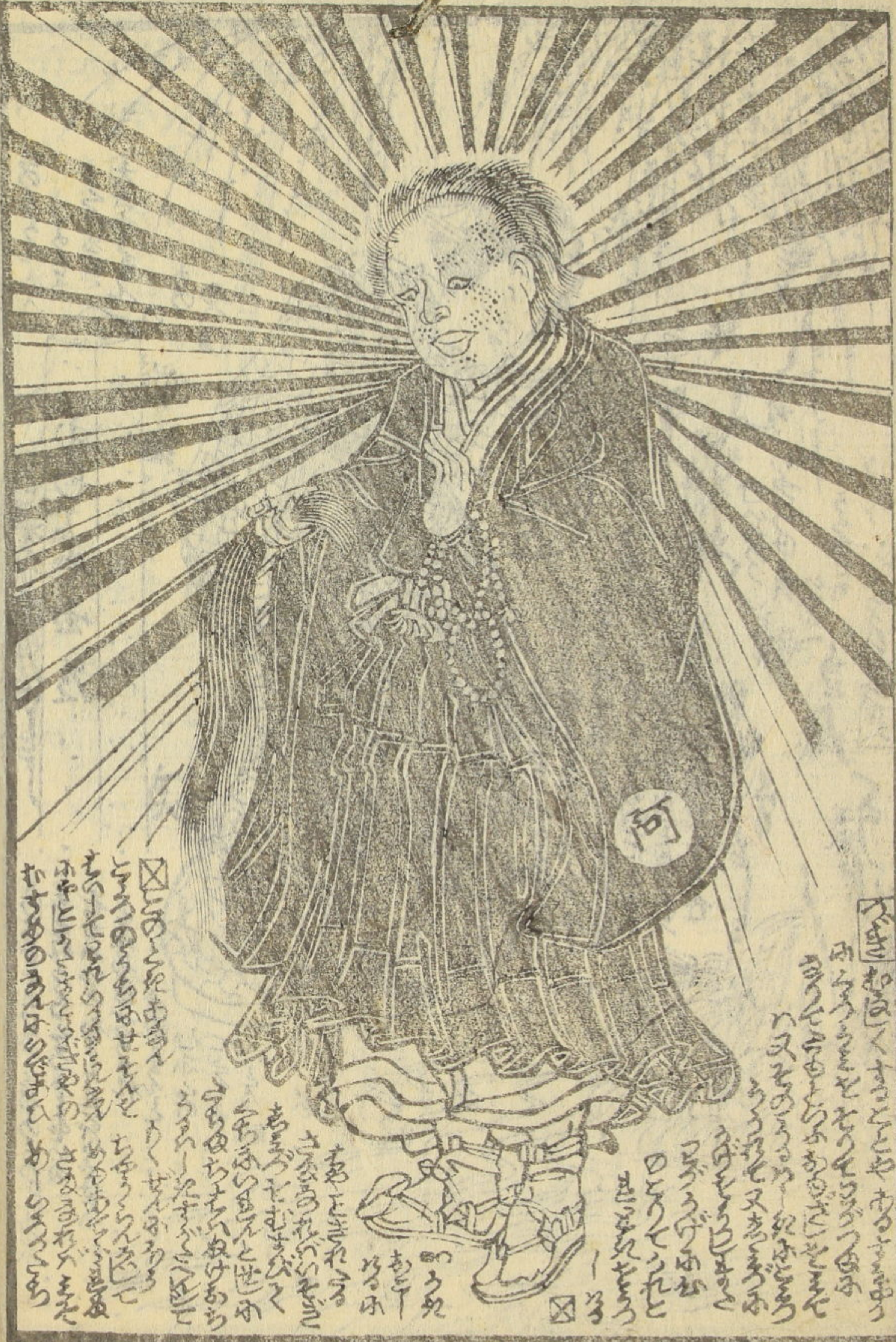
あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



何  
 此佛之身  
 乃由慈悲  
 而化現也  
 其心廣大  
 如虚空也  
 其德無量  
 不可思議  
 其相好莊  
 嚴不可言  
 喻也



此佛之身  
 乃由慈悲  
 而化現也  
 其心廣大  
 如虚空也  
 其德無量  
 不可思議  
 其相好莊  
 嚴不可言  
 喻也



應賀作 國貞画

此は、  
 應賀作の  
 國貞画の  
 一編に  
 入るる  
 事なり  
 其の  
 趣意は  
 如何と  
 せん  
 然るに  
 其の  
 筆致は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 意匠は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 神韻は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 風采は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 骨力は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 神韻は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 風采は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 骨力は  
 如何と  
 せん



優鉢羅華  
 此は、  
 國貞画の  
 一編に  
 入るる  
 事なり  
 其の  
 趣意は  
 如何と  
 せん  
 然るに  
 其の  
 筆致は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 意匠は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 神韻は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 風采は  
 如何と  
 せん  
 其の  
 骨力は  
 如何と  
 せん

慶應四年戊辰春新版目録

倭文庫

五十六編 五十七編 万亭應賀作  
 一壽齋國貞画

朝日譚

七編 柳亭種彦作  
 八編 一惠齋芳幾画

重井菱染別小紋大尾

十返舎一九作  
 沙弥みゆきの 五編  
 大尾

常般石津懷中本

初へん二へん 小舟あて書付  
 三へん四へん 何れ極上最まり

重繪草紙本類問屋

人形町 上州屋重藏板



